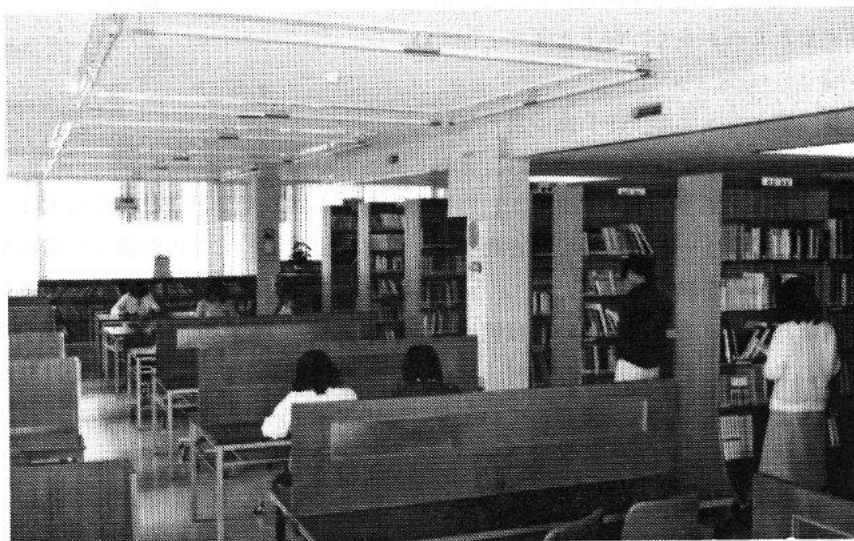




図書館だより

1981-12



手作りの絵本

林 幸四郎

手作りの絵本を図工学習のまとめとして、1年の最後に描かせている。

今年も間近にその季節になった。最初は「上田盆地の民話」から題をさだめて絵本にしたが、近ごろは少しではあるが、創作童話がぼつぼつできるようになり喜んでいる。

子どもが最初に出あうのが絵本で、親子のふれあいの場として大切である。話の参考資料として『ブレーメンの音楽隊』自分の子どもの誕生日にペン画に淡彩を施した手作りの絵本を愛情をこめて贈った。(ハンスフィッシャー作、

福祉館版)『スーホの白い馬』(モンゴル民話—赤羽末吉画)自然が雄大で話も絵もよく、私も昭和18年7月、天津から3日かかりで草原の宮殿まで旅をした思い出もあり、なつかしい絵本である。『おおきなおきなおいも』(東京、鶴巻幼稚園の前市村久子先生が実践した童話をもとにして赤羽末吉著)の絵本はこれからの手作り絵本の最良の手本として学生に見せている。これについては『わたしの絵本論—0才からの絵本』(松居直著)の終りに詳細に書かれていて学生の必読書と思う。

その他、生活の中から創作絵本として発表されている、『やぎのしずか』（田島征三著）(1) もらわれてきた山羊がおかあさん山羊になるまでのお話、(2)「しずか」が始めての子山羊を産んで育てるまでのお話、(3)子山羊が遠くへもらわれて行って、またひとりになった「しずか」の話。東京都下の日の出村に都合を離れて山羊を飼い、畑仕事をしながら描かれた、フォグの力強い生命感のあふれた絵本で生き生きとしている。私も子どものとき山羊を飼育したことがあり、同感するところが多く、飼主と子ども山羊の愛情が感じられる。

東京の私の娘から三橋節子作『雷の落ちない村』（小学館）という創作絵本を贈られ、それ以来、『三橋節子画集』（サンブライト出版部 一京都）『湖の伝説』—三橋節子の愛と死、（梅原猛著）を読み感動を深くした。

絵本も芸術品であると思う。良い絵は何回でも見たいものである。『雷の落ちない村』は充分大人が見てよい絵本で、内容も豊かでおすすめしたい絵本である。

日本画家、三橋節子さんは絵が好きであった。京都市立芸術大学日本画科に在学中、新制作展に入選し、以後毎年出品。S43年インドに旅をした時の「土の香」（100号）「炎の樹」（100号）等は、人と自然が渾然とした素朴ななかにも、ぬくもりを感じる絵である。草花が好きで、雑草を画材にした絵も多い。そのためか長男をくさまを（草麻生）長女になづなという雑草の名をつけてある。

琵琶湖の見える大津市の長等（ながら）の里に家をかまえ、主人も日本画家で靖将さんといい、「二人展」を開いたこともあり、幸福な生活が続いた。右肩にガン性の腫瘍ができていて、画家の大切な右腕を切断することになって、京大病院で手術をうけた。このとき主人は画家だから真実を求めているのだと正直に話した。手術も良好で入院中も左手で字や絵の練習をして、3



月に入院して9月には百号の大作二点を新制作展に出品、「三井の晩鐘」「田鶴来」は傑作とされている。その年の暮には、ガンが肺に転移して再入院手術、それ以来愛する子どもに手作りの民話を残すため描き続けたが、これらの中で未完成で遺族によって発表されたのが、「雷の落ちない村」である。

その他、この年の秋には「雷獣」「花折峠」の二作を描いて三度目の入院をして昭和50年の2月、家族に感謝しつつ若い日本画家は死んだのである。死を目前にして人間として生きる偉大さとその価値をわれわれに教えてくれた。

『ちびくろさんぼ』（ヘレン・バンナーマン）がイギリスからインドに向う船中、二人の娘に書いて送った手作りの絵本が1899年作として出、今だに日本訳にもなって読まれていたり、『ブレーメンの音楽隊』等、すぐれた絵本には童話の挿絵的な考えでなく、作者の子どもへの愛情があふれ出て絵に描かれていると私は思いたいし、絵の心は生命力であり、生きものでなければならぬ。作家の感動を大切にしたい。

（教授）

新しい教育方法の勝利のために

水間 大吉

先日私は久しぶりに親友A君に会った。そしてそれぞれの近況を聞き合い語り合った。なかで中核になった話はA君の長男Nさんの生い立ちで、私は強い感動を受けた。

Nさんは東京芸術大学音楽部作曲科を卒業して現在音楽教育を基調として進学教育でも名高い〇〇学園の幹事教師として活躍している。作曲の方でも全国的音楽教育行事などに関係して優れた作品を発表していると言う。私もNさんを知っているので話にも実が入った。話はNさんの幼時から始まって、どのようにその音楽的才能を伸ばしていったかという問題で、長い間教職を経験して来た者同志として、勢い教育的な内容のものとなった。A君の話をもとめると次の様になる。

『Nは1～2才の頃非常に自動車に興味を持った。おばあさんに自動車を描けとせがんだ。3～4才となって曲りなりにも自動車が描けるようになると、あらゆるところへ自動車を描きまくった。そのうちに種類の異なる自動車を可なり正確に描くようになった。すると今度は自動車のエンジンや警笛の音に興味を持ち、その音を聞くだけで自動車の種類や型を当てる事に夢中になった。小学校に入ってNは不思議と音楽の得意な先生に受持ってもらった。ある時Nは山から竹を切って来て笛を作り始めた。適当な竹を選んで笛の長さに切り焼火箸で穴をあけて作るのである。吹いてみて気に入らないと破り又作り直して何百本と繰り返した。ある日勤めから暗くなって帰って来る途中どこからか祭りの時のお囃子が聞えてくる。はてどこかなと思ひながら来ると、それは自分の家からである。驚いて急ぎ入ってみると、先日から作っていた笛に気に入ったのが出来たとみえて、Nが手製の笛を吹いてい

るのであった。その時の笛の音は、素養のない自分でもすばらしいものに思えた。それから中学高校と進んで、音楽会とか学芸会に招かれて行くと、Nがよくピアノの伴奏をしているのを見た。自分の家にピアノはないのに、どこで習ったのかと不思議に思った。またNがバイオリンを上手に弾いているのを見て驚き、どこで習ったかと尋ねると、担任の先生の家のバイオリンで習ったと答えた。高校の二年生になってNは父親に芸大へ行きたいと申し出た。それも音楽部作曲科と聞いて仰天した。とても合格できるものではあるまいという事と、芸大に入ったとしても将来音楽で自立していけるだろうかという心配があった。何とか思い直して教育学部でも入ってくれればと願って説得もしてみた。しかしNの決心は強く親としてはNに協力して、その志を達成させるより他に致し方がないと思うようになった。それから芸大入学の受験体制が始まり親としてもでき得限りの協力をした。東京の先生のもとに通った通り厳しい受験勉強をしたりして、予想していたより短期間で悲願の合格を果すことができた。お陰で現在音楽教育者として又若手作曲者としてお役に立つことができている。』というのである。最後にA君は付け加えた。Nさんの子どもは父親の厳しい教育課程でピアノを勉強しているが親の目のない所では遊び放題で叱られてばかりいる。しかしA君は孫の遊ぶ方に味方してしまう、と笑った。

この話には私は多くの考えさせられるものがあった。まず第一にN君が自分自身の中に芽生えた興味を追求していくという形で自由奔放に試行を重ねることによって自然に最高の技能を獲得することができたのは、20世紀初頭から考えられたPiaget Methodにも匹敵する新しい

学習方法の適例であると思つた。

言うならば、今世紀から始まった新しい教育方法の勝利を示す一つの輝かしい例証であるとする事であった。しかし、教育の現状を思う時に、第2として次のような事も考えずにはおれなかった。

それは、若し一般的に優れた音楽的能力を習得させようとするならば必ずN君の様に興味の芽生えを待って興味の赴くままに自由にさせなければならないかという、現状では寧ろ児童の興味に任せては高度の才能を育てる事は出来ないと考えているのが大方ではないか。

新しい教育方法は熟していないという感じがして来る。そして最後にこれらの状況について

私は次の事を主張したい。現在では音楽学習はもとよりすべての学習に児童の興味関心を惹き起すことの大切さが十分認められている。こうした児童の心理に即して研究されて来た新しい教育方法はもし学習課程中に厳しい修練を経る必要があるとしても児童自身から進んで取り組む方途を考えている。教育の理想は新しい教育方法によって達成されるものと私は思う。

確かに現実の教育は複雑であり、新しい教育方法が直ちに通用する段階ではないかも知れない。しかし、教師は教育に理想を求めて教育の現実に謙虚に対処し手段を尽し思考を極めて新しい教育法の確立に努める必要があると思うのである。
(講師)

地図 —— 私の好きなもの

塩 入 秀 敏

私は地図が好きだ。それぞれ地図であれば、正確な地形図からイラストマップまで、あるいは、農業や工業・商業などに関する統形地図、更に地質図や、はては天気図に至るまで、とに角好きなのである。これは、フィールドワークが大きな要素である考古学を専門にしているからかもしれない。

奈良国立文化財研究所では、研修生達に何の資料も与えず古墳の実地踏査をさせ、帰ってから見てきた古墳の位置を地図上に示させる訓練をするという。景観を見て地図を頭に思い浮かべ、地図を見て景観が眼前に彷彿とするようであれば不可能な作業である。この様な訓練をするから、フィールドワークを主とする人達は概して地図に強いし、従って地図が好きである。

強い弱いは別として、地図は面白いものだ。そして、実に様々なことを教えてくれる。例えば、ごく当り前の5万分の1とか2万5千分の1の市販の地図を広げてみるがいい。山があり、川があり、町や村がある。よく見てゆくと、植

生がわかり、地名がわかり、集落立地の理由がわかる。大袈裟に言うなら、人間の生活が地図上に見えてくるのである。また、古い集落が自然災害に対していかに安全な場所に立地し、新興住宅地がいかに無設計な開発によるものかわかり、地図は無謀な開発、自然破壊に無言の警句を発しているかのようでもある。

もっと身近に例をとってみよう。私の住んでいる所は「奈良尾」である。全く同じ地名が、小県郡青木村、上水内郡新州新町、小川村、北安曇郡美麻村、新潟県中頸城郡清里村にもある。これらは全て山の中あるいは山麓にあり、山と何らかの関りがあると考えられる。ところで、地質図を重ねてみるとどうだろう。全て、別所層とか青木層、小川層という第3紀層の上に立地しているではないか。即ち、第3紀層によって成り立つ山の山腹あるいは山麓に多く分布する地名であることがわかるのである。これまでも「ナラ」地名に関する解釈は多い。しかし、第3紀層と結びつけた説はないようである。

今後「奈良尾」地名に限らず、もっと対象を広げて「ナラ」地名について調べてみれば、何か新発見が期待できるかもしれない。

この様に、地図を見れば、いや寧ろ地図を読めば、と言った方が適当だが、いろいろのことが見えてくるのである。古い地図により古い時代の社会が、統計地図によってその地域の様子が、天気図や気象図でその地方の家の造りなど

が、たとえボンヤリとでも思い浮かべることができるのである。地名によって姓氏の由来がわかることもある。地図は多くの科学の総合の上に出てくるものであり、これを読むことは、下手な歴史小説、推理小説やSFを読むよりもずっと面白く楽しい。

本を読むという。辞書も引くより読むものであり、同様に地図も読むものなのである。

(講 師)

新 聞 の 楽 し み

前 島 邦 子

新聞を読み始めたのは、いつ頃からだったであろう。おそらく、中学頃からと思うが、興味ひかれる記事の種類が増え、時間をかけて読む習慣がついたのは、大学時代であった。今から思えば、ゆっくりした時間が十分とれ、「精神」も日々の生活の枷から、ある意味で解放されていた。社会学関係の教授に、「大学のレジャーランド化」や「社会的モラトリアム期の長い現代青年」の話をかきされ、「大人」からそう分析されることに対し反発を覚える一方、学生の立場を自ら心もとなく感じていた。

そのようなアンビバレントな心況のなかで、世のなかのすべてのことに対して、果てしなく好奇心が広がっていたのは事実である。加えて一時期新聞部に属し、記事を書いたり、編集したりの部活動もしていた。

朝、起きがけにコーヒーを飲みながら読む、あるいは夕食後に目を通すことが日課になっていった。当時の雑記帳には、「いま自分の生きている社会を把握する、適切なアンテナをうちたてたい」「羅針盤を探したい」というような書きつけが散見できる。その1つの有力な手段が、新聞による情報収集であった。スクラップ・ブックがたまって困ったこともある。

新聞記事は全面を、まんべんなく読むというわけにはいかない。私の記事選択の傾向は、国

際政治・経済に弱く、日本の身近な報道や、文化・教育・文芸欄をより好んだ。そのような傾向はあったものの、種々の記事から、今まさに生きている人々の生活の諸相をかいまみ、社会の動きを察知し、文化・思想の同時代的課題を考え、それをもとに、友人と議論を交わし、判断の素材を蓄積していったことは確かである。政治・経済・社会的な大ニュースだけではなく、投書欄、読者欄、「天声人語」の類も、人々の生活と意識の息づかいが、静かに伝わってくるのでおもしろかった。

同時に、新聞報道の限界にもこの頃気がついた。世界のすべてを記事にすることは不可能だし、また時として「真実」の報道がむずかしいし、同じ活字ジャーナリズムでも月刊誌、週刊誌の方が扱いやすい部門もある。ともかく、鵜呑みの読書は、好ましくないと戒めながらも、手近な情報源として、読み続けてきた。

ニュースは、日々刻々違われ、何をニュースとしてとりあげるかの価値基準も動いている。逆に人々の日常生活と意識は、時にくり返されているかのようにも感じられる。しかし、生活上のたとえば若者文化、婦人問題、教育問題のどれをとりあげても、大きな流れとして動いてきたし、流動的であることを、紙面を通して実感するこの頃である。

(講 師)

図書館利用調査の結果と考察及び今後の課題

図 書 委 員 会

1 はじめに

開学以来、本学関係者全員の念願であった独立図書館が建設され、機能し始めてから丸2年が経とうとしている。その間、大学に於ける教育及び研究活動の場として、名実ともにふさわしい付属図書館にすることができるよう、図書の選定、購入から運営に至るまで、内容の充実、利用の安易化のための努力を重ねてきた。その結果、漸次付属図書館としての機能を果すことができるようになってきている。しかし、それでもなお現状については物足りない部分が多いことは否定できず、可能な限り理想の図書館に少しでも近づけるよう、日々研究を続けている。

そこで、運営側のワンサイドな考え方による研究・改善だけでなく、図書館にとっては主体である利用者より利用状況・意見・要望などを聞き、今後の運営のための参考資料にすべく、図書館利用調査を実施した。

利用者には、学生、教職員、その他があるが、今回は圧倒的多数を占める学生だけを調査の対象とした。

2 調 査

- | | |
|----------|---------------------------------|
| (1) 調査方法 | 無記名のアンケート調査方式 |
| (2) 調査対象 | 本学在学学生 |
| | 調査時 1年生 217名 2年生 203名 } 420名 |
| (3) 調査時期 | 昭和56年7月 |
| (4) 回答数 | 1年生 205名 2年生 158名 } 363名 |
| (5) 回答率 | 1年生 94.5% 2年生 77.8% } 86.4% |
| (6) 調査内容 | P7参照 |
| (7) 調査結果 | |

次に、各質問項目ごとに統計結果を示す。

(P8へ続く)

昭和 56 年 7 月

図 書 館 利 用 調 査

上田女子短期大学付属図書館

はじめに

このアンケートは、本学全員の教育研究活動の場所として、より利用しやすく役立つ図書館とするために、行う調査です。資料の一部としたいので、無記名で記入して下さい。(あてはまるものに○印をして下さい)

(1) あなたは図書館の印象についてどう思いますか。

- 1 ① 使いやすい ② 使いにくい
 2 ③ 落ちついている ④ 落ちつかない
 3 ⑤ 静か ⑥ うるさい

(2) あなたの図書館利用頻度(最近1ヶ月)はどの位ですか。

- ① ほとんど毎日 ② 週3、4日
 ③ 週1回位 ④ 月1回位
 ⑤ 月1回以下 ⑥ 全く利用していない

(3) どのような目的で利用しましたか。(頻度の高かったものから)

- () ① 授業、レポート課題等の調査のため
 () ② 教養、趣味のため
 () ③ 新聞、軽雑誌を読むため。又閲覧のみ
 () ④ その他 ひまつぶし、友達との待ち合わせ、電車まち

(4) 図書館に増やしてほしいと思う本はどのようなものですか。

- 1 用途か () ① 講義、研究等に関連した専門書
 ② 一般教養のための本
 () ③ 社会生活全般の実用書
 () ④ その他

又、領域、分野からみると次のどれですか。(3つ以内に○)

- () ① 一般
 () ② 哲学、心理学、倫理学、宗教
 () ③ 歴史、伝記、地理、記行
 () ④ 社会科学、政治、法律、経済、社会、教育、民俗
 () ⑤ 自然化学、数学、化学、医学
 () ⑥ 工業、工学、技術、家事
 () ⑦ 産業、農林水産、商業、交通
 () ⑧ 芸術、美術、音楽、演劇、体育、娯楽
 () ⑨ 語学、日本語、英、独、仏語
 () ⑩ 文学

(5) 図書館に図書以外の資料等で備えてほしいものは何ですか。

- 3つ選び出して順位をつけて下さい。
 ① レコード ② テープ ③ スライド
 ④ 映画フィルム ⑤ ステレオ装置 ⑥ カセットデッキ
 ⑦ 映写装置 ⑧ ビデオ装置

| | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
|---|---|---|

(6) 図書館に備えつけられている次の雑誌のうちあなたはどの程度利用していますか。

毎号かかさずみる(◎) 時々みる(○) 印
 全くみない。知らない(X) 印

- () 朝日ジャーナル () アサヒグラフ () 文芸春秋
 () 暮しの手帖 () 世界 () 太陽
 () アトリエ () 文学 () ちいさいなつか
 () 栄養と料理 () 現代と保育 () 月刊福祉
 () 月刊エレクトーン () 教育の友 () 児童心理
 () 教育美術 () 教育心理 () 子どもの本棚
 () 日本児童文学 () ムジカノヴァ () 音楽の友
 () おさなご () 青年心理 () 信濃教育
 () 初等教育資料 () 体育の科学 () 特殊教育
 () 幼児と保育 () こどものとも () とうげの旗
 () 婦人公論 () 月刊話と絵本 () 音楽教育研究
 () 愛育 () 教育 () 思想
 () 千曲 () 乳幼児の教育 () 幼児の教育

(7) 図書館で書架案内、本のさがし方、利用法、文献情報などの質問をしたことがありますか。(レファレンス・サービスをうけたことがありますか)

- ① ある ② ない
 あると答えた人は、役に立ちましたか。
 ③ よく理解できた ④ まあまあ役にたった
 ⑤ 全く役にたたなかった

(8) 図書の貸出等についてどう思いますか。

- 1 貸出の手続について ① 簡単 ② 普通 ③ 面倒
 2 期間(日数)について ④ 長い ⑤ 適当 ⑥ 短い
 3 冊数について ⑦ 多い ⑧ 適当 ⑨ 少ない
 Cと答えた人は、理由を記入して下さい

(9) オリエンテーション時(入学直後)のガイダンスは役にたちましたか。

- ① 役にたった ② まあまあである ③ 役にたたなかった

(10) 図書館の施設・設備面で要望があったら記入して下さい。

- 1
2

(11) 図書館の利用時間、コピーサービス、レファレンスサービス、係員の応待等に要望、意見があったら記入して下さい。

- 1
2

(12) 購入してほしい本又は雑誌で具体的に書名等がわかっていたら記入して下さい。

- (1書名 出版社)
 (2書名 出版社)

調 査 結 果

(1) あなたは図書館の印象についてどう思いますか。

(%)

| | | 使いやすい | 使いにくい | 無回答 |
|---|-----|---------|--------|------|
| 1 | 1年生 | 68.8 | 15.6 | 15.6 |
| | 2年生 | 73.4 | 12.7 | 13.9 |
| | 計 | 70.8 | 14.3 | 14.1 |
| | | 落ちついている | 落ちつかない | 無回答 |
| 2 | 1年生 | 88.3 | 1.5 | 10.2 |
| | 2年生 | 86.7 | 3.2 | 10.1 |
| | 計 | 87.6 | 2.2 | 10.2 |
| | | 静か | うるさい | 無回答 |
| 3 | 1年生 | 89.3 | 0.5 | 10.2 |
| | 2年生 | 74.1 | 10.1 | 15.8 |
| | 計 | 82.6 | 4.7 | 12.7 |

結果として、使いやすい、落ちついているという良い評価になっているが、よりよい雰囲気図書館にしていくためには、利用者1人1人のマナーも大切です。

使いにくい、うるさいという回答が若干あるのは、この図書館がそれぞれ機能別に仕切りがされていない、ワンフロアの閲覧室のためであるからではないだろうか。利用者側で、静かな図書館にと努力しあっていくしかない。

(2) あなたの図書館利用頻度(最近1ヶ月)はどの位ですか。

(%)

| | | ほとんど毎日 | 週3, 4日 | 週1回位 | 月1回位 | 月1回以下 | 全く利用していない | 無回答 |
|----|-----|--------|--------|------|------|-------|-----------|-----|
| 1年 | 0.5 | 10.7 | 38.5 | 27.8 | 14.6 | 7.3 | 0.6 | |
| 2年 | 0.6 | 16.6 | 45.6 | 24.7 | 10.1 | 2.5 | 0 | |
| 計 | 0.6 | 13.2 | 41.6 | 26.4 | 12.7 | 5.2 | 0.3 | |

(3) どのような目的で利用しましたか。

(頻度の高かったものから)

(%)

| | | 授業レポート | 教養趣味 | 新聞軽雑誌 | その他ひまつぶし、待ち合せ | 無回答 |
|-----|------|--------|------|-------|---------------|-----|
| 1年生 | 42.4 | 36.1 | 10.2 | 6.8 | 4.5 | |
| 2年生 | 50.0 | 36.7 | 8.2 | 5.1 | 0 | |
| 計 | 45.7 | 36.4 | 9.4 | 6.1 | 2.4 | |

(2), (3)の利用頻度、利用目的は、上記表の通りとなったが、(2)の利用回数は50%以上が、週1回以上利用していることがわかり、忙しい本学のカリキュラムの中で、空き時間等をうまく使いこなして利用している。但し、全く利用していない学生が5.2%いるのは残念である。

利用目的では、教養のためばかりでなく、授業レポート課題のための図書館利用は学生にとって重要なことであるので、できる限り、多くの利用経験をもつように望みたい。

(4) 図書館に増やしてほしいと思う本はどのようなものですか。

(4) - 1 用途からみて次のどれか。(%)

| | 講 義 研 究 | 一般教養 | 社会生活 全般の実用書 | そ の 他 |
|-----|------------|------|----------------|-------|
| 1 年 | 36.1 | 51.7 | 15.6 | 13.2 |
| 2 年 | 46.8 | 39.9 | 31.0 | 11.4 |
| 計 | 40.8 | 46.6 | 22.3 | 12.4 |

2つ以上の回答があるので合計が100%を超える。

(4) - 2 領域、分野からみると次のどれか。(%)

| | 一般 | 哲学 心理学 倫理学 | 歴史 伝記 地理 等 | 社会 科学 政治 法律 経済 教育 | 自然 科学 数学 科学 医学 | 工業 技術 家事 | 産業 農林 水産 商業 交通 | 芸術 美術 音楽 演劇 体育 娯楽 | 語学 日本語 英語 独語 仏語 | 文学 |
|-----|------|------------------|---------------------|----------------------------------|----------------------------|----------------|----------------------------|----------------------------------|-----------------------------|------|
| 1 年 | 57.1 | 12.7 | 25.9 | 12.2 | 14.6 | 1.0 | 0.0 | 46.3 | 6.8 | 69.3 |
| 2 年 | 54.4 | 5.7 | 20.3 | 16.5 | 12.0 | 6.3 | 0.6 | 61.4 | 5.7 | 72.2 |
| 計 | 55.9 | 9.6 | 23.4 | 14.0 | 13.5 | 3.3 | 0.3 | 52.9 | 6.3 | 70.5 |

2つ以上の回答があるので合計が100%を超える。

(4)の質問項目は、(3)の利用目的の結果と少し違い、用途的には、一般教養のための本を充実してほしいという回答が多い。このことは、当館の蔵書構成で、一般教養書が少ないことと一致する。取書、選定方針も徐々に教養書にも力を入れるよう努力するが、大学図書館は、当然、開講科目に関連した専門書に重点をおいているので、ポピュラーな教養、趣味の本は、本学図書館ばかりに期待しないで、公共図書館等も大いに利用してほしい。

(5) 図書館に図書以外の資料等で備えつけてほしいものは何ですか。3つ選び出して順位をつけて下さい。

| | レコ ード | テー プ | スラ イド | 映画 フィ ルム | ステ レオ 装置 | カセ ット デッキ | 映写 装置 | ビデオ装 置 |
|----|----------|---------|----------|----------------|----------------|-----------------|----------|-----------|
| 1年 | 255 | 92 | 85 | 265 | 204 | 142 | 78 | 122 |
| 2年 | 147 | 80 | 97 | 142 | 146 | 84 | 101 | 96 |
| 計 | 402 | 172 | 182 | 407 | 350 | 226 | 179 | 218 |

回答の1位に3点、2位に2点、3位に1点を与え得点制で集計した。

(5) この質問を用意したのは、独立図書館となつて、視聴覚室が付設されたことにより、学生がどの程度、視聴覚資料等に関心を示しているか、又希望があるかを知るためである。得点的にみると、映画フィルム、レコード、ステレオ装置、カセットデッキ等に希望が多かった。現代の時代の要請から、種々の視聴覚機器、資料を各大学でも多く取り入れ、様々な分野で効果を上げている。本学でも予算のゆるす限りとり入れていく方針だが、経費のかかる問題なので長期的に整備することになる。



(6) 図書館に備えつけられている次の雑誌のうちあなたはどの程度利用していますか。

(%)

| | 1年 | 2年 | 全学年 |
|------------|------|------|------|
| 1 朝日ジャーナル | 19.0 | 21.5 | 20.0 |
| 2 暮しの手帖 | 35.1 | 33.5 | 34.4 |
| 3 アトリエ | 14.6 | 24.7 | 19.0 |
| 4 栄養と料理 | 41.5 | 55.1 | 47.4 |
| 5 月刊エレクトーン | 9.8 | 19.0 | 13.8 |
| 6 教育美術 | 2.4 | 12.7 | 5.5 |
| 7 日本児童文学 | 19.5 | 31.6 | 24.8 |
| 8 おさなご | 2.4 | 6.3 | 4.1 |
| 9 初等教育資料 | 4.9 | 12.0 | 8.0 |
| 10 幼児と保育 | 29.8 | 78.5 | 50.7 |
| 11 アサヒグラフ | 43.9 | 42.4 | 43.8 |
| 12 世界 | 5.9 | 5.1 | 5.5 |
| 13 文学 | 14.1 | 25.9 | 19.8 |
| 14 現代と保育 | 7.3 | 24.7 | 14.9 |
| 15 保育の友 | 10.7 | 26.6 | 17.6 |
| 16 教育心理 | 5.4 | 14.6 | 9.4 |
| 17 ムジカノーヴァ | 2.0 | 3.2 | 2.5 |
| 18 青年心理 | 5.4 | 11.4 | 8.0 |
| 19 体育の科学 | 2.0 | 9.5 | 5.2 |
| 20 こどものとも | 12.2 | 23.4 | 17.1 |
| 21 文芸春秋 | 20.0 | 25.9 | 22.6 |
| 22 太陽 | 7.8 | 12.7 | 9.9 |
| 23 ちいさいなかま | 8.8 | 23.4 | 15.2 |
| 24 月刊福祉 | 2.0 | 6.3 | 3.9 |
| 25 児童心理 | 8.8 | 17.1 | 12.1 |
| 26 子どもの本棚 | 6.8 | 12.7 | 9.1 |
| 27 音楽の友 | 18.5 | 24.1 | 20.9 |
| 28 信濃教育 | 3.4 | 5.7 | 4.4 |
| 29 特殊教育 | 1.5 | 10.8 | 5.5 |
| 30 とうげの旗 | 15.1 | 13.9 | 14.6 |
| 31 婦人公論 | 11.2 | 25.9 | 17.6 |
| 32 愛育 | 2.9 | 7.0 | 4.7 |
| 33 千曲 | 2.4 | 2.5 | 2.5 |
| 34 月刊お話と絵本 | 17.6 | 32.3 | 24.0 |
| 35 教育 | 2.0 | 7.0 | 4.1 |
| 36 乳幼児の教育 | 4.9 | 17.1 | 10.2 |
| 37 音楽教育研究 | 2.4 | 8.9 | 5.2 |
| 38 思想 | 0.5 | 5.1 | 2.5 |
| 39 幼児の世界 | 9.8 | 26.6 | 17.1 |

(6)これは、現在継続受入中の全雑誌の購入の資料とするためのもので、◎印=毎号みる、○印=時々みるとを一緒にし、×印=全くみない、知らない、無記入は×印と同じと解釈した。

左頁の表は、毎号みると時々みるとを合計した数字を各学年別と全学年とにパーセントイルで示したものである。はっきりいって、学術雑誌の利用が少い。大学図書館には単行本よりも学術雑誌に力を入れている大学も多く、今や学術雑誌ぬきで、研究調査は不可能な時代であるときえいわれている。

学生は、もう少し学術雑誌の利用を、授業やレポート課題と結びつけて利用し、せつかくの雑誌を死蔵させないように活用させてほしい。

(7) 図書館で書架案内、本のさがし方、利用法、文献情報などの質問をしたことがありますか。

(%)

| | あ | る | な | い | よく理解できた | まあまあ役立った | 全く役に立たない |
|-----|------|------|------|------|---------|----------|----------|
| 1年 | 18.0 | 81.5 | 43.2 | 54.1 | 0 | | |
| 2年 | 41.8 | 57.6 | 60.6 | 36.4 | 0 | | |
| 全学年 | 28.4 | 71.1 | 54.4 | 42.7 | 0 | | |

(8) 圖書の貸出等についてどう思いますか。(%)

| 1.貸出手続 | | ㉑ 簡単 | ㉒ 普通 | ㉓ 面倒 |
|----------------|------|------|------|------|
| | 1年 | 22.4 | 71.2 | 3.9 |
| | 2年 | 34.8 | 62.7 | 2.5 |
| 全学年 | 27.8 | 67.5 | 3.3 | |
| 2.貸出期間 (日数) | | ㉑ 長い | ㉒ 適当 | ㉓ 短い |
| | 1年 | 0.5 | 72.2 | 24.9 |
| | 2年 | 0.0 | 65.2 | 34.8 |
| 全学年 | 0.3 | 69.1 | 29.2 | |
| 3.貸出冊数 | | ㉑ 多い | ㉒ 適当 | ㉓ 少い |
| | 1年 | 1.0 | 91.7 | 4.9 |
| | 2年 | 0 | 93.0 | 7.0 |
| 全学年 | 0.6 | 92.3 | 5.8 | |

(9) オリエンテーション時(入学直後)の
ガイダンスは役にたちましたか。

(%)

| | ㉑ 役にたった | ㉒ まあまあである | ㉓ 役に立たなかった |
|-----|---------|-----------|------------|
| 1 年 | 17.1 | 71.2 | 10.7 |
| 2 年 | 15.8 | 69.0 | 11.4 |
| 全学年 | 16.5 | 70.2 | 11.0 |

(7), (8), (9)をみるに、図書館で積極的にレファレンスを受けようとする人が多いことがわかる。係が、カウンターの中で仕事をしているので質問しにくいと思っている人がいるかもしれないが、出納係員の本来の職務は貸出し、返却業務はもとより、参考業務がカウンター業務の本務であるのだということも周知してほしい。乏しい資料の中のレファレンスで、役に立たないこともあるかとも思うが、館員自らも学ぶ気持ちでやっていきたいと考えているので気軽に声をかけてほしい。又、その際、調べたい内容をはっきり係に伝えてほしい。

(8)の利用期間、冊数、手続きについては、②、貸出期間の延長を多く望んでいるのではと予想したが、統計的にみる限りでは約70%の人が適当と答え、30%の人が延長を望んでいる。他大学でも一番多い問題と聞き、延長(期間を長く)した結果を調べてみるに、今まで以上の延滞者が出たという報告があり、それでなくても延滞者の多い本学ではもう少し検討が必要であろう。但し、保育実習や卒業研究等には申出ることにより特別措置をしたり、更新(借りかえ)も2回までを許可しているので、これらの特例を利用するようにしてほしい。

尚、委員会としても昭和57年度から何らかの方法を検討してみたいと考えている。

(10) 図書館の施設・設備面で要望があったら
記入して下さい。

(11) 図書館の利用時間、コピーサービス、レファレンスサービス、係員の応待等に要望、意見があったら記入して下さい。

(12) 講入してほしい本又は雑誌で具体的に書名等がわかっていたら記入して下さい。

(10), (11), (12)の各項目については1年95人、2年57人から次に上げる項目の意見、要望が出された。大まかに施設、設備面と利用サービス面、及び購入希望図書、資料とに大別し、同じ意見はまとめてみた。

◎施設、設備、環境関係

- 冷房を入れてほしい (36人)
- ロッカー少い (5人)
- トイレがほしい (27人)
- B・G・Mを入れてほしい (2人)
- 個別の研究可能な仕切りの部置がほしい。グループ研究の出来る部屋がほしい (2人)
- 本の書架案内がほしい (8人)
- 分類案内がほしい (6人)
- かばんの持込みを許可してほしい (1人)
- カードボックスの使い方不明 (1人)
- 広々とさせてほしい (8人)
- ステレオを入れてほしい (1人)
- テレビを入れてほしい (2人)
- 紙芝居が古い 破損をなおしてほしい (2人)
- 館内うるさい—グループ研究は館外でするようにしてほしい (1人)

◎利用サービス面

- 利用時間を延長してほしい (39人)
(早朝、夕方、土曜日等含む)
- 利用期間(貸出期間)を延長してほしい (1人)
- 係がいつもカウンターにいてほしい (16人)
係が親切である (5人)
係が不親切である (4人)
- コピーサービスについて

- ・大型版が可能に (2人)
- ・両面のコピー可能に (1人)
- ・安価にしてほしい (4人)
- ・おつりを用意してほしい (1人)
- ・自分でコピー可能に (1人)
- ・その他 (3人)

○利用面は今までどおりでよい (3人)

◎購入希望の図書、資料

傾向、量的に希望するもの

- 文学書 7人
- 文庫本 1人
- 専門書 1人
- 絵本
 - 民話、昔話 1人
 - 児童文学 1人
 - 翻訳童話 1人
- 教養書 1人
- 小説 3人
- 漫画 1人
- 推理小説 1人
- 雑誌 2人
- 音楽関係書 1人
- ベストセラー本 1人
- 蔵書数を増やして 3人
- 本学の先生方の著作本 1人

具体的に書名の上げられたもの

単行本

- 愛して学んで仕事して
- コスモス
- 四季・奈津子
- ねむの木の歌がきこえる
- 飛鳥へ そしてまだみぬ子供へ
- 私の絵本論 (2人)
- 石仏と道祖神
- 横溝正史の本 (2人)
- 私家版、日本語文法
- 窓ぎわのトットちゃん (8人)
- されどわれらが日々
- なんとなくクリスタル
- 氷点
- すみ(書道の本)
- 灰谷健次郎の本 (3人)
- (1年1組先生あのね)
- 生きることの意味

雑誌

- 小説ジュニア
- P・H・P
- 装苑
- マザーリング
- スクリーン (3人)
- ロードショウ
- こどものしあわせ
- だいあるーく

(10), (11), (12)の項目は、具体的に記入してもらう形式をとったが、予想していた通り、設備面では、冷房、トイレが上がった。このアンケートの実施時期が7月ということもあって、切実に感じたことと思う。朝から夕方までこの建物の中にいる係も、最高37℃、平均32℃～33℃の暑さの中で、今夏は2Fでの業務続行が困難となり、1Fの視聴覚室に移動をして仕事をし、利用者に不便をかけた。又、現在は寒い時で暖房が必要であるが、これも夏と反対に、全面ガラス窓のためか、室内温度が放熱してしまい、いくら暖房を入れても暖まらない。夏暑く冬寒い建物である。

これらのことは、再三、大学当局に要望しているが、早急に解決出来ることでなく、長期的に改善の方向へ要望していきたい。トイレのことも同じく、設計段階で事情により取りはずされてしまったため、利用者はもとより館員にとっても本当に不便な図書館である。当局の理解を望んでいるところである。

利用サービス面で、係がいつもカウンターにいてほしいという要望が多かったが、これは、本年前期(特に春季)事務局の学科増設業務の多忙から、職員の移動があり、図書館全体運営を1人の職員が行なわなければならなかった事情により、学生には特に不便をかけた。もともとカウンター業務をとどこおりなく行うためには、最低2～3人以上職員が必要である。独立図書館になっても旧体制のままの人員配置であることから、利用者に多大の迷惑をかけているが、係が事務室内にいて他の業務をしていたら、声をかけ呼んでほしい。又、利用時間の延長も、かなり以前から要望として出ているが、現在の人員配置では一寸望めないことである。

時間内の有効な利用をおねがしたい。

購入希望図書、資料については、出来る限り購入していく方針である。しかし、ポピュラーな雑誌や、文庫本は大学図書館の蔵書とするには不相当であるので個人的にも購入してほしい。

3. おわりに

今回の利用調査を結ぶに当たって、現在の多様化している短大生（特に活字離れの傾向）に対して、図書館はどのような意識で受けとめられているのかという問いに、今回のアンケートは様々な結果と問題点を示した。特に懸念したことは、新独立図書館に対して、利用しにくい、雰囲気が悪いという感想をかなりの学生がもっているのではないかと心配があったが、（現場側からみると建物が先行し、中身のともなっていない図書館というイメージであるから）結果からの総合評価は予想したよりも良く、学生が感じている全体の印象は「まずまずは、利用者が好印象をもっている図書館」といってよいような気がする。

しかし、各項目の中にある、不備、不完全な部分への批判、要望も無視できない大きな反省点として受けとめるもの多であった。

とりわけ、学生の不満、希望に対する改善策については充分話し合いの場をもったが、若干の改善策への手がかりとはなっても、図書館だけで解決できないことが多く、容易にここで答えが出せないものばかりである。

特に利用面はともかく、施設、設備面での要望には、偏に学校当局の深い理解と協力をあおがないことには解決しない。建物構造の点、予算、図書館職員の不足等の問題点が解決されない限り、図書館は前へ進めない。中でも、建物構造に係る問題（トイレ、冷房、暖房）はまだ独立図書館となって2年未満であることを考えると、何故新築段階で方法が講じられなかったのかと残念でならない。

長期的見地にたち、学校当局に協力を要請していききたい。

しかし、現状の中にあって、図書館側ではできる限りのサービスはささやかながらも、してい

たいし、実行できるギリギリの改善策をさぐっていききたいと思う。けれども図書館利用は、強制的にするものではなく、学生自ら“学ぼう”“勉強しよう”という自発的な態度と、その機能を発揮させようという図書館員の協力とが相まって不十分な中にも、有効な利用方法は見つけ出せるのではないだろうか。

最近、大学図書館相互協力とか、学術情報システムとか、これからの学術研究や、情報流通の在り方に図書館の果す役割が見なおされ、必要性が高まってきている。小図書館では解決できなくとも、相互協力をしあうことで、より研究の成果も上るのではないかと思う。積極的な利用を望むものである。

開学以来、始めて、この様な利用実態調査をし、利用者の意見、苦情、要望といった声を生の声として受けとめることができた。前向きに対処していききたい。

最後に、貴重な時間をさき、この調査に協力をしてくれた学生1人1人に心から感謝する。

……新刊書棚から……

1. わたし、いややねん（偕成社）

吉村敬子文、松下香住絵

今年は国際障害者年である。障害者にちなんだ本はたくさん出ているが、絵本にも、いろいろな本が出た。中でも、「わたしたちのトビアス」（セシリア・スベデベリ編、偕成社）や「ボスがきた」（福井達雨編、偕成社）が出ている。そしてこの「わたし、いややねん」は作者自身、脳性小児マヒで車イスの生活をしている。外出する時、車イスを使う著者は一みんなじろじろ見るからでかけるん、いややねん—と人間としての叫びを素直につづっている。友人として著者の車イスを押しつづける画家の手により、車イスの絵がくりかえされ描かれているこの本は、言葉以上の思いを読者につたえている。

今日までの学生生活

2年 小山 幸代

2年生の11月中旬、やっと勉強したくなってきた。勉強といっても広い意味のもので、たとえば、ゼミナールを経験したいとか、社会福祉関係の講義を聴きたいとか、違った環境にいる違った考えをもつ多くの人と意見を交わしたいなどということである。つまり、読みたい本が何冊もあり、やりたい事が山ほど出てきたという心情が沸き起きている。ようやく自分の求めている物が見え始めたところなのに、もうこの短大を卒業して就職しなくてはならない時を迎えている。勿論、こうした勉強というのは就職したらできなくなってしまいうというものではないが、今この環境の中で、19や20の若い学生の時代に先ずやりたいと思う。

私は、何を自分が求めているのかということに気付くのが遅かったのだろうか。しかし、過去を振り返ると、一時の思いつきでとりくんだ事は長く続かず、たっぷり時間をかけて思い悩んで決断した事によって自分の進む方向を決めてきたように思えるので、決して遅かったという意識はない。私にはここで気付いたことが重要なんだと思う。そして、他の人達がそういう時期を通り過ぎたところに、その物に夢中でいられる自分が、何だかとてもうれしい。今日までの学生生活で、今が一番生き生きしている。いつも通りの生活の中で、不意に「ああ、生きて良かった。生きてるって楽しいなあ。」と心の底から思える。

いいかえれば、勉強したいというのは、多くのとりくみによる広い知識の中から、心の豊かさを養っていききたいということに尽きる。物事に感動する心や、良否を判断する力、考える力を培いたいです。

友人と、「私達は、嶋田ゼミと松田ゼミと前

島ゼミをとっているようなものだね。」と話したことがある。学生同志や先生との意見交換や意志伝達、講義を発展させた研究討論の場としてのゼミナール、というものが本学になくて残念だと思う。しかし、毎日それぞれの専門分野を学生に教授して下さる先生方が、ひとり一人の人生論を説かれているようにも思えて、とても有意義である。また、私は何度本学の屋上に出て景色を眺めたり、友達と話したりしたことであろうか。静かな自然環境に恵まれた中で、自然との対話、友達との語らいが広がった。

やがて、卒業しようとしている本学での学生生活 — ひとつも不満がなかったわけではない — しかし、お互いを高め合えるような友達との出会いがあり、その生き方に多くを教えられた先生方との出会いがあった。私にとって、とても良い教育の機会だったと思われる。これからも、広い意味で学ぶ態度を忘れない人間になりたい。

新刊書棚から

* 学習する女性の時代

(日本放送出版協会)

神田道子・女子教育問題研究会編

文部省の生涯教育の未来予測に「21世紀は死ぬまで学習する時代になろう」とあるが、特に女性が各種の学習機関で学ぶ姿がめだつ。本書はそうした女性の学習参加の実態を、子育て解放時期から老令期までの人を対象に広範囲な調査研究、資料により分析、まとめられたものである。

(本学、前嶋邦子先生、第Ⅳ章執筆担当、— 女子教育問題研究会 所属)

報道網の発達と読書

人間の社会的コミュニケーションの歴史の上に、マスコミュニケーションが発達したのは、近代になってからだと言われている。

近代以前の封建社会では、農業を主とする自給自足経済に、生活の範囲が閉ざされていた。その社会では、パーソナル・コミュニケーション、いわゆる個人的な関係の伝達だけが主形となり、情報は、いわば支配層の限られていた貴族や僧侶などの間だけに報道可能とされていた。しかし、商業活動が興り、商品の交換、流通が広がると、その荷ない手であるブルジョアジー（資本家階級）の間にも情報及び媒体の必要が高まった。そして、19世紀中葉以降、支配権力を批判する表現活動を（厳重に）禁止していた制度に対して、「言論の自由」を基調とする新たな動きが開始され、技術的な進歩もあって、徐々に情報は大衆に開放されてきたのである。

1924年、朝日新聞が、発行部数百部を突破したと発表したのが、これが日本におけるマスコミュニケーションの端緒を示している。20世紀に入ると、ラジオが開始され、1930年代の第二次世界大戦後には、本格的なテレビの普及がめだつようになった。映像、電波などの媒体が登場し、マスメディアが多重化し、情報の複製や伝達能力も高度になった。そして産業化がいっそう深まり、受け手側も、全人口の規模にまで広がり、現在では、すべての人間がこの中で生活していると言われている。このような映像・電波による情報伝達が発達した反面、子供、青年達の読書量が減ったと指摘されている。例えば、10月29日付「信濃毎日新聞」の社説に更埴市で開かれた長野県図書館大会の様子が掲げられていた。それによると、高校生の図書館利用の実態は、利用者と利用しない人との差が大きく、一般的に本のすばらしさはわかっているのだが、余暇時間の利用は、ラジオ・テレビに向けられている傾向が強いとの事である。勉

1年 中 沢 真由美

強疲れて神経を休める場として、テレビを頼っているという事情らしい。

そのような実態の原因の一つには、目のかたきとされているテレビなどには、独特の魅力があるからであろう。元来、テレビのおもしろさや、マンガのおもしろさ、読書のおもしろさは、それぞれ異質のものである。特徴的な違いとして、テレビの場合、子供は大して努力しなくても、前に座ってダイヤルをまわせば画面が自然に表われ、それを目と耳で追ってだけで話のすじがわかってしまう。ところが読書はそうはいかない。自ら集中し、ある種の努力をしなければ、活字を追えない事情がある。殊に、本を読むことに慣れていない初めのうちは大変だ。それを乗り越えることにより、本の繰り広げる世界の深さ、おもしろさを自然と味わうことが出来るようになるのではなからうか。

その意味では、乳幼児期からの本との出会いが、大切だと思われる。0歳からの絵本は、決して早くはないという。1歳は「ものの絵本」の時期と言われ、ここで要求されることは何よりも絵が正確で丁寧に描かれている事であり、マンガ風な表情をつけた動物の絵は避けなければならない。2歳は単純な「物語の絵本」、3歳は「乗物の絵本」や「空想物語の絵本」を読む時期である。加古里子氏の「だるまちゃんてんぐちゃん」「だるまちゃんとかみなりちゃん」などのだるまちゃんシリーズも空想物語として有名だ。そして4歳から5歳児にかけては、伝来の昔話の「もも太郎」「ふるやのもり」「かきじろう」などの話があげられ、又、科学的な読み物にも興味を示す時期だそうである。読書は小さい頃からの習慣づけて決まると言えるのではなからうか。将来保母として、あるいは母親として、子供の読書を实际的に再考したいものである。

だが、現在短大生である自分自身はどうであ

ろうか。本を同世代の人より読んでいるとは言えないが、短大の図書館には、よく足を運ぶ。図書館そのものは、新しい事もあって細かい所まで工夫されていると思う。1階のブラウジングルームに置かれている数々の本は、あき時間中充分に楽しませてくれる。2階も、1人用の机や、集団で調べられるような机が配置され、読

書と勉学に都合よくなっている。

現在、私自身はレポートの下調べに本をよく利用する。いずれにしても私たちは、この短大を卒業すればすぐに社会人になる。その時の為に、その将来の為に、多くの本に接し、出会い教養を高めることが今の時点、最も大切な事だとあらためて思う。

~~~~~ つつじが丘学園での実習を終えて ~~~~~



私にとって初めての实習、それが養護施設であるつつじが丘学園に於いてでした。私は先ず、とにかく最初は、園生と早く仲良くなり、自分からその中に、溶け込んでいこうと思っていました。けれど養護施設は、幼稚園・保育園とちがい、年齢が幼児から中学生まで幅広く、又、それぞれがいろいろな事情を持っている子供達でしたので、簡単にはなじめないのではないだろうかと、とても不安でした。ところが私の心配をよそに、園生達は思ったよりずっと明るく素直で、子供達の方から積極的に、私に親しんでくれました。

園生との心に残った触れ合い、これは挙げればきりのない程あります。その中でも特に心に残っていることは、実習二日目の夕食の時のこ

2年 射手 直美

とです。私はその晩、一緒にテーブルで食べた子供達と、つい話がはずんでしまい、私達のテーブルは、食べ終わるのが一番遅くなってしまったのです。そのため炊事の先生方に御迷惑をかけ、子供達の規則正しい生活のペースをくずしてしまいました。もちろん私は事務室に呼ばれ、指導員の先生に注意を受けました。その時、一緒に夕食を取ったテーブルの子供達が、「お姉さんは悪くないんだよ」と、かばいに来てくれたのです。無論私も悪かったのですが、その事がなんだかとてもうれしくてたまりませんでした。その後でも、「お姉さん気にするなよ」と、なぐさめてくれたりして、本当にやさしい、いい子供ばかりでした。

次に、私の感動した場面として挙げたいのは、幼児七人の中で、只ひとり来入児である、あやちゃんの一生懸命に生きている姿です。あやちゃんは、幼児の中でひとり町の保育園に通っているのですが、普通の子供より三年程知能が遅れており、まだしゃべる言葉も少なく、おもしろやおねしょも毎日のことで、なかなか気むずかしい子供でした。私達の実習二日目、あやちゃんの通っている保育園で、おたのしみ会があり、私もそれを見に行きました。保育園はクラス数も多く、出し物も盛りだくさんで、父兄の方も多勢来ていました。そんな父兄の中に混じって、私も子供達の演技をじっと見ていました。

そして、あやちゃんの番はまだかまだかと待っていたのです。しばらくして、大きな子に混じって、ひときわ小さなウサギが、ぎこちなくピョンピョン出て来ました。アッ、あやちゃん、あやちゃんの出番です。私はおもわず手を振ってしまいました。そして心の中で、あやちゃんがみんなについて行ける様に、最後までしっかり演技ができる様に、必死で祈っていました。その時の私は、まるでその子の母親にでもなった様な気分でした。あやちゃんは、半ばぼんやりしながらも無事役を終え、私はおしみなない拍手を送りました。「よくがんばったね、アーヤ、」そう心の中でくりかえしながら。

私はこの実習中、本気で子供達の中に飛び込み、共に生活をしました。子供達も随分私に慣れ、親しんでくれました。けれど時折、ほんの瞬間、どうしてもうめつくせない溝みたいなものを感じました。それをうまく書き表わすことはできないのですが、やはり両親がいて、幸せな環境の中で育ってきた私と、全くちがう環境の中にいる子供達とのちがいがからくるものなのでしょう。この八日間、いろいろな経験、勉強をしました。そして又、子供達を通して、自分の生き方、ものの考え方なども深く見直すことができた様に思います。施設実習、本当に貴重な経験でした。

あ の 本 は、 い ま

須 永 淑

遠い道を行くといろいろな人に出会うように長年月にわたり付き合った本は数知れないが、遙か彼方に忘れ去ったつもりでも、心の片隅に残照を保ちながら、時にふと鮮やかに甦るものもある。岡本かの子の作品「生々流転」が出版されたのは昭和十四、五年頃だったろうか。私がまだ十代から二十代へ入ったばかりであった。当時の文学的評価はどうあったかは少しも覚えていないが、かの子という作家に興味を持ったのは事実で、前後して同じ著者のものを集めて読みふけたおぼえはある。

世をあげて戦いに傾斜してゆく暗さを無意識のうちに感じながら何も知らされぬ若い魂の苛立ちと、やり場のない悲しみを中心にすえた作品であった。愛の真実を極限まで求めゆく殉爛とした哀切きわまりない物語の味を今でも思い出すのである。

作中の美しい主人公の点景に夫婦の乞食が出てくる。精薄と聾啞という障害をそれぞれに負った男と女が、しっかり手をつないで毎日街を

ふらふら歩いてゆく。手は絶対に放さない。片方が蹠いても、手が放れないので二人して無様にころんでしまう。それを人々は笑う。そのうち女が先に死んだ。ひとりになった男に誰かが人形を抱かせ、これ俺のお嫁さんと言えと教えこむ。男は誰に向かっても無邪気に嬉しげに言われたとおりにくりかえす。妙に心に残りつゞける場面である。

かの子はこの作の中で諸行無常という言葉は何回も使っていた。あの童女のような芸術家の感性が、人間世界の愛憎の彼方まで見極めてしまっていたのかも知れない。二十歳の私はこの中から涙とともに諸行無常というものの見方を感じとして受取ることができたように思う。

あの本は今、どこへ行ってしまったろうか。古い古い昔の話である。今もあの初版本の紫色に華やいだ装丁が目につく。もし手にとって頁をひらいたら、二十歳の青春の涙がまだ本の中にあるかもしれない。

(助教授)

…【図書館ガイド】…

図書の分類について

この図書館ガイドは図書館をより効果的に利用できるように、図書館のシステムや、概要、又は新規に取り入れられたこと等を分かり易く説明するためのものです。今年度は分類について説明します。

1. はじめに分類とは

分類とはどんなことか？「広辞苑」をひいてみると「①種類によって分けること②区分を徹底的におこない事物、又はその認識を整頓し、体系づける」とある。このことは、＜共通の性質のものを集めてグループを作る＞ということと＜異質のものを分離する＞という両面の意味をもつものである。

さて、分類の意味についてはこの位にして、図書館の分類（つまり図書分類法）について説明してみたい。現在の分類法は、利用者が主題によって図書を探せるよう図書そのものを主題によって書架上に並べた「書架分類」となっています。

2. 図書分類表

図書を主題によって分類するためには、そのための規則 — ことばを記号におきかえる規則 — が必要です。これを分類表といいます。

分類表は世界に何種類もあり、日本では日本十進分類法（N・D・C）が最も多く使われ、本学図書館もN・D・C新訂8版を使用しています。これは全国のほとんどの図書館で使用されていますから一度覚えればどこの図書館へ行っても役立ちます。

では実際の内容を説明します。このN・D・Cは十進法というように、特定の主題をもつ図書を9区分し、それに1～9までの数字を与えます。そしてその9区分のどこにも入らないもの（百科辞典、年鑑等）に0を与えるのです。このようにして10個の区分を「類」といいます。（表1）

各類をそれぞれ主題で9区分し、0とあわせて10個に分け — 「綱」という — さらにその綱を区分する。 — 「目」という — というよ

うに展開していくわけです。（表2）

「教育を支えるもの-O・F・ボルノウ」という本は、

3〔00〕…社会科学……類(Class)

37〔0〕…教育……綱(Division)

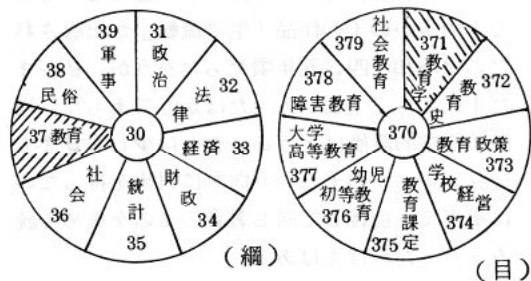
371 ……教育学、教育思想…目(Section)

となり、371という記号におきかえるわけです。こうして図書館にある本はすべて、N・D・Cによって分類され、同じ主題の本がまとめられているわけです。

表1 主類表

| | | |
|---|------|------|
| 0 | 総記 | 記学 |
| 1 | 哲学 | 史学 |
| 2 | 歴史 | 社会科学 |
| 3 | 社会科学 | 自然科学 |
| 4 | 自然科学 | 工業 |
| 5 | 工業 | 農業 |
| 6 | 産業 | 芸術 |
| 7 | 芸術 | 言語 |
| 8 | 言語 | 文学 |
| 9 | 文学 | 学 |

表2



3. 助記性

分類法の大まかな構成がわかったと思います。この分類記号を覚えやすいように共通性のあるものは、なるべく同じ記号を使うように工夫しようということで、N・D・Cには助記性というものがあります。「地理区分」「国語区分」「時代区分」「形式細目」と呼ばれているものです。〈表3〉をみて下さい。

まず地理区分と国語区分ですが〈表 4〉の主網表の「200 歴史」と国語区分「800 語学」を比べると共通の部分があることに気がつくはず。「時代区分」「形式区分」については省略しますが、03 という数字は参考図書(辞典、ハンドブック等)を示すのですが、地理区分の3はヨーロッパを示す記号でもあり、同じ3がいくつかの意味を持っていますから注意してみましょう。

表 3 助 記 表

| | | | |
|-----------|-------------|---------|-------------|
| 1. 地理区分 | | 2. 国語区分 | |
| 1 | 日 本 | 1 | 日 本 語 |
| 2 | ア ジ ア | 2 | 中 国 語 |
| 3 | ヨ-ロッパ ※ | 3 | 東 洋 諸 語 |
| 4 | ア フ リ カ | 4 | 英 (米) 語 |
| 5 | 北アメリカ | 5 | ド イ ツ 語 |
| 6 | 南アメリカ | 6 | フ ラ ン ス 語 |
| 7 | オセアニア | 7 | ス ペ イ ン 語 |
| 3. 日本時代区分 | | 8 | ポルトガル語 |
| 2 | 原始時代 | 9 | イ タ リ ア 語 |
| 3 | 古 (大和~平安) 代 | 7 | ロ シ ア 語 |
| 4 | 中 (鎌倉~桃山) 世 | 8 | ギ リ シ ア 語 |
| 5 | 近 (江戸) 世 | 9 | |
| 6 | 近 (明治~大正) 代 | 01 | 理 論 ・ 学 説 |
| 7 | 昭 和 | 02 | 歴 史 ・ 事 情 |
| 4. 形式区分 | | 03 | 参 考 図 書 ※ |
| 01 | 理 論 ・ 学 説 | 04 | 論 集 |
| 02 | 歴 史 ・ 事 情 | 05 | 逐 次 刊 行 物 |
| 03 | 参 考 図 書 ※ | 06 | 学 会 ・ 団 体 |
| 04 | 論 集 | 07 | 研 究 ・ 指 導 法 |
| 05 | 逐 次 刊 行 物 | 08 | 双 書 ・ 全 集 |
| 06 | 学 会 ・ 団 体 | 09 | 経 済 的 観 点 |
| 07 | 研 究 ・ 指 導 法 | | |
| 08 | 双 書 ・ 全 集 | | |
| 09 | 経 済 的 観 点 | | |

表 4 主 網 表

| | | |
|-----------|-------------------------|-----------------------|
| 000 | 総 記 | (略) |
| 010 | 図 書 館 | ※ 800 語 学 |
| 020 | 図 書 ・ 書 誌 学 | 810 日 本 語 |
| 030 | 百 科 事 典 | 820 中 国 語 ・ 東 洋 諸 語 |
| 040 | 一 般 論 文 集 ・ 講 演 集 ・ 雑 書 | 830 英 語 |
| 050 | 逐 次 刊 行 物 | 840 ド イ ツ 語 |
| 060 | 学 会 ・ 博 物 館 | 850 フ ラ ン ス 語 |
| 070 | 新 聞 ・ ジャーナリズム | 860 ス ペ イ ン 語 |
| 080 | 双 書 ・ 全 集 | 870 イ タ リ ア 語 |
| 090 | | 880 ロ シ ア 語 |
| (略) | | 890 そ の 他 諸 国 語 |
| ※ 200 歴 史 | | 900 文 学 |
| 210 | 日 本 | 910 日 本 文 学 ・ 東 洋 文 学 |
| 220 | ア ジ ア | 920 中 国 文 学 ・ 東 洋 文 学 |
| 230 | ヨ-ロッパ | 930 英 ・ 米 文 学 |
| 240 | ア フ リ カ | 940 ド イ ツ 文 学 |
| 250 | 北アメリカ | 950 フ ラ ン ス 文 学 |
| 260 | 南アメリカ | 960 ス ペ イ ン 文 学 |
| 270 | オセアニア | 970 イ タ リ ア 文 学 |
| 280 | 伝 記 | 980 ロ シ ア 文 学 |
| 290 | 地 理 | 990 そ の 他 諸 国 文 学 |

これで、N・D・Cのしくみの大体がわかったかと思いますが、図書館の約2万冊弱の図書1冊1冊についているラベルの最上段の数字に皆、それぞれの意味があるのだということを認識して下さい。

今年は「窓ぎわのトットちゃん」(黒柳徹子著)という本がベストセラーになりました。この本は著者の幼い頃の自伝的エッセイです。エッセイは「914」となります。しかし自伝として取り上げると「289」となります。又、幼い日、ともえ学園で過ごした頃の事を中心に書いてあることから教育的に取り上げると「371」とも考えられます。本は、その著わされた内容によっては一主題に限定出来ないものもあります。しかし、その本が一番うったえようとしている内容に、又複数の主題を含むものは、ウェイトの大きな主題にと分類するわけです。上記の著書は「371」としてあります。このように現在の本学図書館の分類は、幼児教育科としての特性を考え、教育に関係した本は、出来る限り一ヶ所に集中させる方針で分類をしていることも認識して下さい。

以上、本がどのような意味をもって書架上並ぶのか、又、1冊1冊の図書に我々図書館員の手がいかにかかっているかを理解して、一度みた本は、きちんともとの番号にもどすことや、書架上にさがせない本をあきらめてしまわないで分類表(カード・ケース上に常置)をみたり、又目録をひくなどして、あなたの図書館利用を効果あるものにして下さい。(N・D・Cの主網表は、図書館ガイドブックP15にあります。)

参考資料

- 1. 日本十進分類法、新訂 8 版 (日本図書館協会)
- 1. 図書分類法要説 (理想社)
- 1. N・D・Cのつかい方 (日本図書館協会)他

(長張)

◇◇◇◇◇ 寄贈図書案内 ◇◇◇◇◇

— 昭和56年度主な寄贈 —

| | | | |
|---------------------------------|------------|---------------|----|
| ○おんなの四季(勝部真長)他2冊 | ぎょうせい | 松田幸子先生 | 寄贈 |
| ○近代人の原像(小倉志祥) | 弘文堂 | " | " |
| ○旅と伝説 全33巻 | 岩崎美術社 | 本学前事務長 遠藤憲三氏 | " |
| ○長野県教育史 15・16巻 | 長野県教育史刊行会 | 長野県教育委員会 | " |
| ○長野県史 考古資料編・近世資料編2冊 | 長野県史刊行会 | 長野県 | " |
| ○坂城町誌 中巻歴史編 | 坂城町誌刊行会 | 坂城町 | " |
| ○県立長野図書館五十年史 | 県立長野図書館 | 県立長野図書館 | " |
| ○回想 私と図書館 | 日本図書館協会 | 日本図書館協会 | " |
| ○学習する女性の時代(神田道子・女子教育) 問題研究会編 | 日本放送出版協会 | 前島邦子先生 | " |
| ○道祖神 真田町石財文化財 | 真田町教育委員会 | 真田町教育委員会 | " |
| ○収蔵品目録 | 信濃教育博物館 | 信濃教育会 | " |
| ○お母さんへのメッセージ、保育の現場から | 神奈川県民生部 | 神奈川県民生部 | " |
| ○疎外と教育(黒沢惟昭)他2冊 | 新評論 | 神奈川大助教授 黒沢惟昭氏 | " |
| ○現代の書写、書教育(塚田康信、塚田清策) | 暁教育図書 | 信大教授 塚田清策氏 | " |
| ○学童保育のすべて 他4冊 | 一声社 | S55年度卒研グループ | " |
| ○美しけ原讃歌(山本峻秀) | 実業之日本社 | 山本峻秀氏 | " |
| ○長野県上田高等学校校史 草創編 | 上田高校同窓会 | 上田高校同窓会 | " |
| ○玉川学園五十年史 | 玉川学園 | 玉川学園 | " |
| ○藤女子短期大学30年・藤女子大学20年記念誌 | 藤女子大学 | 藤女子大学 | " |
| ○長崎県立女子短期大学三十周年記念誌 | 長崎県立女子短期大学 | 長崎県立女子短期大学 | " |
| ○育ての心(山本恭雄)他5冊 | すずき出版 | 須永 淑先生 | " |
| ○弘法山古墳 | 松本市教育委員会 | 塩入秀敏先生 | " |
| ○郷土の人物 山極勝三郎博士 | 上田市立博物館 | 上田市立博物館 | " |
| ○上田の写真の歴史 | " | " | " |
| ○乳幼児の発達と保育(日名子太郎) | 日本保育協会 | 日本保育協会 | " |
| ○保育所管理者の職能と指導性(重田信一等) | " | " | " |
| ○実践女子学園八十年史 | 実践女子学園 | 実践女子学園 | " |

尚、先日、須永先生並びに先生の御家族の方から数百冊に及ぶ図書の寄贈を受けました。整理がつき次第、閲覧に出します。紙上にて御礼申し上げます。

////////////////////
編 集 後 記

今年もいよいよ卒業研究の追い込みの季節となり、多くのグループが連日図書館を利用している。短大独特の密なカリキュラムの中で、一時を惜んで研究している姿に、カウンター側からも応援したいと思う。

今回の第8号は、7月に実施した「図書館利用調査」の結果及び考察の特集号とした。回答の中に多く出たトイレ・冷房等の設備面の要望は、随時学校当局にお

願いしていくこととして、利用サービスについては、極力利用者の意に添うよう、レファレンスワークの強化を旨とし新たな心で歩みたい。

最後に、多勢の方々から豊かな知識・経験に基づいたご寄稿をいただき、ボリュームある図書館だよりになりましたこと、深く感謝する次第です。

(窪田)